

平成25年度 政務調査費 先進都市調査報告書

会派名	
議員名	水江一弘・児玉智明・佐藤潤・小田中稔・高橋直美・立野浩靖
調査実施年月日	平成25年11月19日～11月22日
調査先 自治体名等	長崎県 佐世保市
調査項目	「佐世保市保幼小連携接続カリキュラム」について
調査目的	幼保小連携の取り組みについての調査
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先(市町村)の概要 人口:261,775人(H25.3.31現在) 行政面積:426.58 km²</p> <p>2 視察内容 佐世保市保幼小連携協議会設立経緯について 佐世保市保幼小連携接続カリキュラムについて</p>
感想(まとめ) 本市へ生かせること等	<p>佐世保市保幼小連携協議会設立経緯について 佐世保市では、平成17年「佐世保市幼児教育センター」事業として、公開保育・公開授業などの「保幼小連携講座」を開設し、保幼小連携への理解の推進に取り組んでいたが、保育士や幼稚園教諭と小学校教師の間での意識の相違や互いの保育や教育内容についての理解不足などで思うように進まないという課題が浮き彫りとなり、小1プロブレム解消のためには更なる連携の取り組みが必要と考えられた。</p> <p>平成22年、小学校区ごとの取り組みの温度差を解消するため、市全体での保幼小連携のシステム化を図るため「保幼小連携協議会」を設置し、更に同年、保幼小連携の推進計画検討のため、保育所・幼稚園・小学校の各団体の代表者を委員とした「保幼小連携推進会議」の設置や、地域別の「保幼小連携担当者会」を開催し、翌、平成23年度には、小学校区ごとの「保幼小連携年間交流計画」を作成するなどし、連携のための積極的な取り組みが行われている。</p> <p>佐世保市では、顔の見える連携と個の情報共有が、幼保小連携の上で最も有効であることが強調されていた。保幼小連携会議を市内の全小学校との間で繰り返し何度も行うことで、どの子がどの小学校に就学しても個の情報共有のできる関係が築かれている。</p> <p>保幼小連携接続カリキュラムについて 「佐世保市保幼小連携接続カリキュラム」は、「佐世保市保幼小連携協議会」の組織内に「接続カリキュラム検討委員会」を設置し、作成された。 おおむね5歳児後半から小学校入学後1学期までを接続期とし、その接続期にある子ども達が過ごしている保育所・幼稚園が遊びを中心とした保育・教育であるのに対し、小学校は教科等の学習を中心とする教育と、その教育内容や指導方法が異なるため、保育所・幼稚園と小学校の滑らかな「生活の接続」と「学びの接続」を考え、互いを理解し見通しを持った保育・教育が進められるよう、指導の目安としてまとめられている。</p>

小1プロブレム解消には、研究者の中でも、幼保小の各機関が、個の情報を共有すること、また、接続カリキュラムの作成と活用が有効であるとの指摘がある。

本市に於いても接続期の子どもたちがつまずくことなく、スムーズな接続ができるよう、取り組みを前進させるべきと考える。

佐世保市の全市的な連携のシステム化と「佐世保市保幼小連携カリキュラム」から学ぶことは多く、大変参考となる調査であった。